

◆生協の宅配（共同購入）で地域の方々に貢献したい!!

～生協の宅配（共同購入）を知っていただく取り組みを全国の生協が支援

被災地生協（いわて生協・みやぎ生協・コープふくしま・パルシステム福島）では、生協の宅配（共同購入）利用のご案内活動（仲間づくり）に力を入れています。

それは、生協を利用して、一日でも早く普段の生活を取り戻していただきたい、笑顔になってもらいたいとの思いからです。

被災地には、買い物に不便している人がいまだに大勢います。

生協自体も大きな被害を受けましたが、一日でも早く事業を建て直し、食料や雑貨など生活に不可欠な商品を届けていく。そのことが、地域の人々のくらしを守る生協の役割です。

そこで、生協のことをご案内し、組合員として生協の仲間になっていただく「仲間づくり」活動が、6月から8月にかけて、被災地生協全体で行なわれました。この活動には、187人の全国からの支援者も参加し、同期間で、約3万人が生協の宅配の仲間に加わりました。

## さいたまコープ・旧騎西高校での避難所応援隊



炊き出しの食材はJA埼玉、ヨーグルトはユニセフからの提供。



ふれあい喫茶でポップリ袋の作成。



郷土料理「冷や汁」もテーブルへ。

さいたまコープでは、埼玉県内の避難所で暮らす皆さんのために職員やOB、組合員で結成する「避難所応援隊」で定期的な炊き出しなどを行なっています。

7月17日には、加須（かぞ）市の旧騎西（きさい）高校で昼食の炊き出しや子どものための交通安全教室、「ふれあい喫茶」など手作りのイベントを開催して交流を深めました。ポップリ袋を作るイベントでは一つ仕上がるたびに歓声が上がリ、また、わざわざ炊き出しコーナーに戻ってきて、「ごちそうさま。おいしかった」と声をかける方もいました。

旧騎西高校には福島・双葉（ふたば）町の皆さんが1,000人余り暮らしています。

埼玉県内の避難所は閉鎖が始まっています。今までは大規模な場所に集まることで連帯でき、情報も集めやすかったのですが、これからは難しくなります。

福島県内では仮設住宅の建設が進んでいますが、放射線の影響を考慮して居住をためらう人は少なくありません。特に小さな子どもがいる保護者の不安は大きく、仕事のある人だけが福島に戻らざるをえない状況です。こうして離れ離れになってしまった家庭への支援も今後の課題の一つです。

（※日生協『復興支援ポータルサイト』でも紹介中

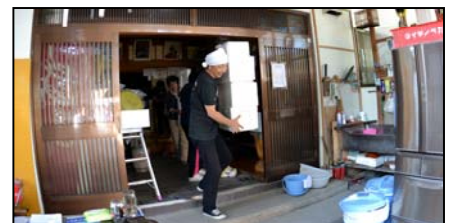
→<http://shinsai.jccu.coop/contents/005/>）

### いわて生協 お弁当ボランティア 5,918食を提供しました

いわて生協では、震災の被害が大きかった陸前高田と大槌（おおつち）町などの沿岸部に毎週火曜日と木曜日に手作りのお弁当を届けました。

取り組みは5月10日から7月28日まで行なわれ、延べ432人のボランティアが参加して、作ったお弁当は計5,918食になりました。

お肉やお魚、野菜や乳製品など栄養バランスを考えたメニューは大好評でした。



少しでも役立てばと、延べ432人が活動に参加。



食材はいわて生協に寄せられたものと募金で購入。